

有機農業（多品目露地野菜栽培）について学ぶ ～常陸太田市有機農業現地検討会を開催～

茨城県県北農林事務所では、持続可能な農業の実現と付加価値を高めた農産物生産による農業の振興を図るため、有機農業を推進しています。

今回は、その一環として常陸太田市と連携し、エダマメを中心に約30品目の野菜の有機栽培に取り組む近藤良弘氏の栽培技術を紹介し、有機農業への理解の促進と有機農業者の栽培技術の向上に役立てていただくため、現地検討会を開催しました。

- ◇ 日時：令和5年10月3日（火）午後2時～
- ◇ 場所：常陸太田市役所里美支所及び現地ほ場
- ◇ 主催：茨城県県北農林事務所
- ◇ 共催：常陸太田市農政課・販売流通対策課
- ◇ 参加者：有機農業実践者、有機農業に関心のある農業者、農業関係団体等約30名



【近藤 良弘氏の経営概要】

○近藤氏は、有機農業を始めるため平成22年、常陸太田市里美地区に移住。地区内の農業者から有機農業栽培技術を習得。現在、経営面積150aで、エダマメを中心に約30品目の野菜を栽培している。令和5年には有機JAS認証を取得、生産物は地元直売所、道の駅等で販売している。

○現地検討会のほ場は、昨年、中山間地域農業基盤整備事業を活用し、暗きよに加え、ソーラー電池による用排水調整設備を設置。湿害に悩まされていたサトイモの生育は良好。

○エダマメは肥料は入れず、作付前に雑草害虫対策として土壌表面をビニールフィルムで覆う「太陽熱消毒」を1ヶ月程度行っている。その後、白マルチに張り替え、エダマメを播種し、防虫ネットを設置する。安定栽培のポイントは摘心を行い、歩留まりを良くすること。

なお、エダマメ以外の品目については、牛ふん堆肥や緑肥（ソルガム）を活用し、土づくりを行っている。



【参加者の声】

○なるべく農薬は使用したくないので、今回の講座は参考になった。

○有機JAS認証で使用できる農薬はあるのか。

○販売ツールとして、ECサイトの立ち上げ等、県でも考えてもらいたい。

県北地域では、現在、有機農業に関する多様な取組が展開されています。

県北農林事務所では、現地検討会でいただいた貴重なご意見等を参考に、関係機関と連携を図り、引き続き有機農業の取組を推進してまいります。